

我が校の強み弱み分析・評価シート

大津市立真野北小学校

○調査目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

【結果について】

《概要》

本校では、いずれの教科も全国の平均正答率を下回る結果となりました。教科ごとに見ると、国語科では12ポイント、算数科では13ポイント、理科では、13ポイント全国平均を下回りました。項目別にみると、国語科では「話す・聞く」の観点では全国平均とほぼ同等でした。「思考力・判断力・表現力」の中でも、特に「書くこと」については、全国平均より大きく下回りました。算数科や理科では、全ての領域で全国の平均正答率よりも低い傾向にありました。また、無解答率が高い傾向も見られ、長文を最後まで粘り強く読み進めたり、理解したことについて自分の考えをまとめたりする力には弱さが見られます。

児童質問紙調査においては、「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか。」や「理科の勉強は好きですか。」等の項目で肯定的な回答が全国の回答率より上回りました。一方で、「生活習慣・学習習慣」の項目については低い傾向が見られました。

【国語・算数・理科】

全国平均と比較してよい傾向がある問題

教科	問題番号	問題の概要	問題の趣旨
国語	1三 (2)	【インタビューの様子の一部】で小森さんが傍線部イのように発言した理由として適切なものをせんたくする。	話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる。
算数	4(4)	10%増量した詰め替え用のハンドソープの内容量が、増量前の何倍かを選ぶ。	「10%増量」の意味を解釈し、「増量後の量」が「増量前の量」の何倍になっているかを表すことができるかどうかをみる。
理科	4(1)	水の温まり方について、問題に対するまとめをいうために、調べる必要があることについて書く。	水の温まり方について、問題に対するまとめを導き出す際、解決するための観察、実験の方法が適切であったかを検討し、表現することができるかどうかをみる。

全国平均と比較して課題が見られる問題

教科	問題番号	問題の概要	問題の趣旨
国語	2三	【ちらし】の二重傍線部を、【調べたこと】を基に詳しく書く。	目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる。
算数	3(2)	3/4+2/3について、共通する単位分数と、3/4と2/3が、共通する単位分数の幾つ分になるかを書く。	分数の加法について、数の相対的な大きさをを用いて、共通する単位を捉えることができるかどうかをみる。
理科	3(2)	レタスの種子の発芽の結果から、てるみさんの気づきを基に見いだした問題について書く。	レタスの種子の発芽の条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見いだし、表現することができるかどうかをみる。

【質問紙調査】

全国平均と比較してよい傾向がある主な項目

- ・「「いじめは、どんな理由があってもいけない事だと思いますか。」等、規範意識の項目。
- ・「5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立などを工夫して発表していましたか。」「理科の勉強は好きですか。」「理科の授業の内容はよくわかりますか。」等、学習における考え方や取り組みに関する項目。

全国平均と比較して課題が見られる主な項目

- ・「学校の授業以外に普段、1日当たりどれくらいの時間読書しますか。」「読書は好きですか。」「新聞を読んでいますか。」等、読書に関する項目。
- ・「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。また、起きていますか。」等、生活習慣に関する項目。
- ・「あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って情報を整理することができますと思いますか。」等ICTに関する項目。

【指導の充実に向けて】

- ① 「百マス計算」「視写」を継続し、反復的な練習を繰り返すことで、基礎・基本の力を確実につける学習活動を充実させます。
- ② 「書く」活動へ慣れ親しむために、学習の振り返りや作文など書く活動を授業に取り入れる工夫をします。
- ③ 様々な文章に触れる機会を設けて、正しい文章構成や言葉を学ぶ時間を充実します。
- ④ 教科指導の際には、自分の考えや答えを導く手順を、図や表、文章で書き表す学習活動を行い、筋道を立てて考えることができるような授業づくりを進めます。
- ⑤ ICT 機器を適切な場面で積極的に活用していきます。
- ⑥ 「家庭学習のすすめ」の配布などを通して、家庭と連携し、音読や漢字、計算練習、自主的な学習など、家庭学習に取り組む習慣化を図ります。
- ⑦ 本校の児童のもつ学習活動への前向きな姿勢をしっかりと支え、具体的な行動力や思考力につながるよう、子ども一人ひとりを大切にしたい指導を続けていきます。
- ⑧ 校内研究や OJT 研修を活用し、全教職員の指導力向上を目指します。